

新しいバラの香り群とその心理・生理効果

○駒木 亮一¹, 時野谷 嘉恵¹, 服部 和代¹, 石川 夏与¹, 窪田 正男¹,
尾崎 昌章²(¹カネボウ化粧品 スキンケア研,²曾田香料 フレグランス開)

【目的】バラと人類との関わり合いは古い。今から数千前まで遡ることができる。その後、様々な品種改良が行なわれ、また、蒸留法など様々な手法で精油が採油され、香水始め化粧品や食品にも使用されてきた。筆者等は、このバラの香りの研究を行い、新しいバラの香り、新しい効能効果などバラが人類を惹きつける魅力の解明を試みてきた。今回、さらに研究を深め、新規なバラ香気の探求、そしてその効果について調べることにした。

【方法】官能評価法により、予めバラの香り特徴を調べ、選定し、その選定されたバラの香りをヘッドスペース法と水蒸気蒸留法等により分析した。さらに、脳波測定、心電図解析法、抗酸化能等により、香りの効果を評価した。

【結果及び考察】一般的に知られているバラの香りは、phenyl ethyl alcohol、citronellol、geraniol を主体とした群である。筆者等はこれら以外に 4-methyl styrene を香り主成分とする群を見出し、その香りの特徴と心理学的、生理学的効果を明らかにした。これ以外に ionone 類を中心とする香りを有する群を見出し、その成分と効果を調べ、興味ある結果を得た。